

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200079		
法人名	医療法人豊寿会		
事業所名	グループホーム ふれあい園	ユニット名	2号棟
所在地	都城市高崎町東霧島752番地3		
自己評価作成日	令和1年7月1日	評価結果市町村受理日	令和元年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中で広い庭を散歩できたり、外での食事や茶話会が出来る環境にある。医療法人の経営のため医師がほぼ毎日来園して健康管理に努めている。「最期まで」という思いでターミナルケアを行い、ここでの看取りも多く経験している。家族会も協力的で、奉仕作業もして下さる関係を構築出来ている。この家族会は医師との面談、食事会ととても参加率が高く、良い雰囲気の中で行われている。外には畑もあり、入所の方や家族の応援で野菜を収穫して食卓に上っている。認知症介護指導者のいる施設として認知症の勉強会などは定期的に行い、今後は企業が実務者研修を行う施設として、登録を申請中である。少しでも介護福祉士を育てていこうにしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアに対して、常に学ぶ姿勢をもって、学んだことを実行し、より良いケアを目指して、施設長、管理者が職員と一緒に試行錯誤しながら取り組んでいる。入居者一人ひとりの心身状態、有する力に合わせた細やかなケアを実施し、できることは続けられるよう働きかけ、役割をもって暮らせるよう支援している。法人が経営している医療機関と密に連携をとることで、本人、家族の希望に応じて看取りまでケアした事例も多く、本人が安心して過ごせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した位置づけであることを意識した理念に変更して、理念を意識しながらケアを行っている。		時代に応じた理念をつくり、玄関やホール内に掲示し、日々のケアの中で理念に沿っているか振り返りながら、理念に込めた思いを共有できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物の情報を頂いて、可能な限り参加する様にしている。こけない体操にも参加出来る様に、地域の受け入れ体制は出来ているが、スタッフの関係で、参加が難しい状況である。		施設は所在地区内の交流の機会が無い中で、隣の地区を含めた地域の「こけない体操」に参加したり、加工センターや梅園に出かけ地域との交流に努めている。	最も身近な地域に協力者ができるように働きかけを続け、日常的な交流が進み、顔が見える関係のなかで、災害時等もお互いに協力し合えるようになることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催し物や声が掛かれれば、より認知症について発信出来ると思うが、機会は少ない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に2回の運営推進会議では、行事報告だけでなく園の様子や入所者の方の状況、研修の報告を行って、取り組んでいる事を報告している。ご家族や出席者の方からの意見を参考にし、前向きに取り組むようにしている。		行事報告や研修で学んだことを報告し、参加者からは意見や要望、地域の情報等を出してもらい、地域の行事参加等に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いている。介護保険課からの意見として、管理者だけでなく、出席者が話を伺える貴重な時間となっている。		運営推進会議や地域ブロック内のケアマネジャー会等で、市や地域包括支援センターの担当者に事業所の状況等を伝える機会を持ち、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に研修を行っている。何が拘束に当たるのかを、職員だけでなく、ご家族とも話をする事で、拘束の意味を周知する。ご家族と話し合いをして、ご本人の状況を理解していただく様に努めている。		3か月に1回対策検討委員会を開催し、正しい理解と身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の具体的な行為を理解したうえで、やむを得ないときは、家族の同意を得たうえで、理由等の記録をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、管理者が研修に参加してミーティングや勉強会の時にフィードバックしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。必要となりそうな方もいらつしやり、市の担当の方とも話をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、管理者が説明をしながら行っている。改定や、必要な手続きの際も、説明をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等、ご家族と話すする時間を必ず作って、話をしやすい信頼関係が築けている。	年1回の家族会や法人代表による家族との面談で、要望や意見を聞く機会を設けている。普段の面会時の職員との会話の中で、何でも言える関係を築くよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の中で、話が出来る環境であり、お互いが情報やヒントを共有実践していく事で、共に入所者やスタッフが支えあえる関係が作れている。	施設長や管理者は、職員が働きやすい環境を整えるため、提案や要望を話せる関係を築くよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの実績や経験、取り組みや意欲を評価して下さっている。スタッフの勤務条件を可能な限り柔軟に対応している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の中で宮崎県認知症指導者の方を招いた研修を定期的に行っている。研修の情報はスタッフの提供しているが、介護福祉士の資格には繋がっていない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、ケアマネ会や研修に参加して、ネットワークが広がる様にしている。スタッフもグループホーム連絡協議会や、研修への参加で、他の施設の職員との交流の場が作れている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談の時は、ご本人の言動や表情を伺いながら、ご本人の言葉で望まれている事や不安な事を聞きだされる様に、話をしやすい環境や会話を心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が自宅や入所前にいらしたとこで感じてきた事や、ご本人に対しての思いやご家族の思いを聞いて、ご家族が安心出来る様に話し合いをして、信頼して頂ける関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が抱えているニーズに対して、よりよく暮らせる為に必要な事を見出して、実践していきながらも、調整やご本人が園生活に慣れていける様に、対応する様にしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をしていく事で、知り得ていく事を大切に、信頼関係が構築していける様に努めている。名前は分からなくても、顔を見て分かってもらえる事や、気持ちを表出出来る関係が作れる様にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、毎月生活の状況を手紙で報告している。面会時や電話等で、ご家族の思いを伺う事で、双方が協力してご本人を支えていける関係を作れている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや自宅、知り合いの方の家に出かけたり、面会に来られたりしている。会いたいと思っている方がいる時には、ご家族にお伝えしている。	同級生との外食や家族との年忌や墓参り等の機会を作り、馴染みの美容室の利用や自宅周辺へのドライブを支援するなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の方の中でも、仲の良い方や関わりが少ない方がいらっしゃるが、少ない人数の中でも、それぞれの性格や関係を理解して、共に生活している一員である事を感じながら過ごして頂ける様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族の方が、季節の物やお菓子、果物を持ってきてくださっている。施設を替わられる時には、その方の必要なケアが途切れずに行われる様に情報を提供している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者の生活に必要な支援や望まれている事が達成出来る様に、日々の生活の把握だけでなく、日々の中で聞かれた言葉からも思いを引き出す事を心掛けている。	言葉だけでなく、態度や目の動き等を観察し、本人の意向や希望を把握することに努め、その時々のお気持ちに寄り添って、待つことも意識しながら支援することに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の段階で、センター方式にシートを活用して伺っている。初期の段階では聞けなかった情報も、徐々に得ていく事もあり、ご本人との関係を築く事でも必要な事であり、活かせる事や出来る事を実践したり、続けられる様に支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の方の生活の中での様子を、行動や言動からいつもと同じではない事や、気付きを見付けられる様に、情報を共有している。課題と思われる事もプラスの視点として捉えられるケアを心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者の方の状態や必要と思われる事に応じながら、ご本人やご家族、職員等と話し合いながら、支援する方向や計画を作成している。気付きやヒント、実際に	本人、家族の意向をもとにスタッフによる話し合いや日々の記録、事業所独自の計画実施表の内容で、介護計画にそったケアができていないか評価し、必要に応じた介護計画の見直し、作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、センタ方式のD-4シートを参考にしている。日課だけでなくその時の状況や会話、関わり、影響している事等を記入して、その人が何を感じているのか、必要としているのかを把握出来る様にして、気付きを活かした計画、実践をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者や家族の方に、園の特徴を活かした支援や、お互いの可能な事を前向きに探して、現状に捉われない柔軟な支援が出来る様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方が生活して来られた環境や現在の力を、活かして、希望されている事や今までの生活に近付ける様に、協力をもらう様にしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医について希望を伺っている。眼科受診やその他のかかりつけ医にもご家族の協力を得ながら受診が行えている。	かかりつけ医は、本人、家族の希望により決めている。代表者の医師が週5日訪問し入居者の普段の状態を把握し、専門医受診時には情報提供を行い適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、状況を前もって報告している。変化のある時には、状態を看護師に報告して医師の指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本院への入院だけでなく、他の医療機関に入院時は、情報提供や訪問をして状況を把握している。病院だけでなくご家族とも相談をしながら、早期の退院に向けての対応をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や状態に応じて、その都度ご家族と本院の医師、園側と話をしている。最期まで園で過ごさせて欲しいと希望される方がほとんどで、看取りの実績もあり、毎回学びがたくさんあり感謝している。ご家族には、園の出来る事と出来ない事をお話して、納得された上での看取りを行っている。	利用開始時に看取りについて方針等を本人家族に説明し意向確認をした後、毎年、終末期の対応の確認を行っており、1年間に複数の看取りの実績もある。看取りの対応が必要な時は、オンコール(看護師との連絡)態勢が取られ、昼夜関係なく、不安なくケアが行われるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	インシデントや事故報告書の振り返りや、入所者の急変等については、ミーティング等でも話をして、対応出来る力を身に付けてきている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼と夜を想定して避難訓練を実施している。地域の消防団には、民生委員様からも声を掛けて頂いているが、実際に園との交流が行えていない。食料は、実際にシュミレーションして、確保している量を確認した。	年2回、昼間と夜間帯を想定した防災訓練が、利用者参加で行われている。自動通報装置とスプリンクラーが設置され、非常食の備蓄もあり災害時に備えた体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の方と馴染みの関係を築く事と馴染みの関係は別である事は、職員全員が周知している。入所者の方の今までの生活や性格を十分に把握して、尊重する様に心掛けている。		反応がいい名前の呼び方や丁寧語を使うことを心がけ、生活歴を大事にした会話等で、一人ひとりの思いや人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をされる方、濁される方、伝えられない方といらっしゃるが、一人ひとりの状態に応じて、ご本人の気持ちを言葉だけでなく表情や状態から、伺う様に心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の日課はあるが、一人で過ごされる時間も、ご自分のペースで過ごされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大切にしてきた洋服や、好みの服を着る楽しみをいつまでも持って頂きたいと支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や苦手な物は、ご家族やご本人の食事の状況から把握している。食事は何よりの楽しみであり、いつまでも楽しみである様に、食べる事への意欲を持って頂ける様に心掛けている。調理の下ごしらえや準備、片付けには、入所者と一緒に行っている。	李郎のものや菜園で採れた野菜を使った献立で、匂を感じられる食事は、ほとんど残すこともない。職員の見守りの中、食器洗いやおしぼりタオルたたみなどできることを手伝ってもらい、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は表に記入してスタッフ全員が必要量が摂取出来ているかを把握している。食事のタイミングや環境、状態に応じた食器やスプーン等工夫しながら、食べる事の大切さ、一口の大切さをスタッフが感じながら勧めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の方の中には、口腔ケアが行われていなかった方もいるが、入所されてから、毎食後の口腔ケアが定着している。ターミナルで食事がとれない方も口腔ケアをしっかり行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助で夜間はオムツを使用している方も、日中はトイレ誘導して、トイレで排泄が出来る様に開所当初から取り組んでいる。ただ、全介助の方の移乗はスタッフの負担が増えてきており、気持ちだけでは続けられない事も課題として出てきている。	日中は排せつチェックシートで排せつパターンを把握して、トイレでの排せつとお湯で陰部洗浄を行うことで、排せつ後の清涼感が保てるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の周期や量を、スタッフが把握して、申し送りも行っている。薬に頼らずに、出来るだけ食事や水分、適度な運動での排便がある様に支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴出来る方には、時間を見ながら声掛けをしている。入浴したいと思われる時間帯に声を掛けてみたり、入浴出来なかった時でも、次の日にでも入浴出来る様に支援している。	週3回を基本に、日中のどの時間でも入られるようにしている。介助を必要とする人は、空いている時間を利用して入浴している。一人ひとりの希望に合わせて自由に入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の方の心身の状況によって、食後や傾眠の多い時等は、居室で休んで頂いている。夜間の中途覚醒される方や眠りの浅い方には、程よい運動や外気浴を行うことで、睡眠時間が整う事に繋がる様にしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬だけでなく、昔から飲んでこられている市販の薬も把握している。薬の処方が変わった際は、医師や看護師から副作用や注意事項が伝えられているので、変化を見逃さない様に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の方の生活歴は入所時に伺っているが、入所されてから発見する事もあり、得意な事不得意な事を共有しながら、出来る事出来る様に準備をして、一人ひとりが何かを出来る環境を作っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい場所がある時には、ご家族にお伝えして、外出されている方もいる。可能な時は、入所者の方とドライブを兼ねて出かけたりしている。	多目的室からテラスへの出入り口は段差がなくいつでも外に出られるので、園内の庭の散歩や外気浴ができるよう支援している。家族の協力を得て、自宅に泊りがけで出かけたり、外食に出かけるなどして外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を所持されている方はいるが、ほとんどの方は、家族が管理されている。ジュースの購入程度である。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの誕生日や父の日、母の日のプレゼントがある方もいる。電話で話をしたり手紙が送ってきたりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には、季節を感じられる月ごとの飾りつけや花を飾っている。ホールの日めくりのカレンダーは各棟入所者の方が毎日替えて下さっている。ホールや居室は過ごされされる状況で、空調を調整したり音楽を流したりしている。	食堂と多目的室(居間)がはっきり分かれており、テレビを見たり、会話を楽しんだりゆっくりつるげる環境が保たれている。廊下や壁の季節を感じられる飾りつけや天窓の日よけのための飾りつけなど工夫し、居心地のよい空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、プレイルームや居室、それぞれの場所では入所者の方が思い思いに過ごされている。二人掛けのソファや一人掛けの掛けのソファを用意している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ご本人の使い慣れた馴染みのある物を持って来ていただく様に話しているが、新しく購入されてきた物が多い。中でも仏壇やペットのぬいぐるみや椅子等、少しでも持ってきて下さっている物もある。	家族の写真や家具、仏壇など本人や家族の思いが込められたものを持ち込み、毎日、写真を見たり、仏壇に手を合わせたりすることが日課となり、穏やかに過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の方の目線や視界に入る表示や、関心を持てる物を取り入れながら、プレートを作っている。一人ひとりの力を引き出す為に必要な物や身体の状態によって必要になる物を、工夫して作ったりしている。			